

建設経済委員会記録

日 時	令和2年10月30日(金) 午後 1時15分 ~ 午後 1時25分 午後 3時27分 ~ 午後 4時10分
場 所	第5・第6委員会室
出席委員	◎平野 光一 ○後藤浩一郎 石井 昭一 上橋 泉 北村 和之 末永 康文 田中 晋 林 紗絵子 日暮 栄治
委員外出席者	なし
欠席議員	なし
説明のため出席した者	副市長(鬼沢徹雄) 土木部長(星 雅之) 土木部理事(鈴木久雄) 交通政策課長(坂齊 豊) その他関係職員

午後 1時15分開会

○委員長 ただいまから建設経済委員会を開会いたします。

○委員長 本日は、新型コロナウイルス感染症の流行により市内事業者が受けている影響について実態を伺うため、柏商工会議所及び柏市沼南商工会をお招きいたしました。商工会議所、そして商工会の皆様、現場の生々しい実態、実情をお話しいただくのに、委員会の中で参考人として呼び出すのではなく、委員会協議会の形式として実施したいと考えています。

また、商工会議所、沼南商工会から貴重なお話を伺える機会ですので、建設経済委員会以外の議員の皆さんにも御参加の案内をさせていただきましたので、御了承願います。

本日の流れとしては、この後委員会を休憩し、1時30分から協議会を開会し、3時30分をめぐりに協議会を閉会します。その後、委員会を再開して、執行部から報告を受ける予定ですので、よろしく願いいたします。

御意見がありましたら、どうぞ。

○日暮 この前の委員会で、委員長のほうから商工会、また商工会議所をお招きして、いろんな実情、実態を伺いたいという話がありました。私も、なるほどな、そういう集まりを行うのだなと思っていました。先日、文章で委員会を開いて、協議会に切り替えてとか、また議員全員に案内状を出したということを知り及んだわけですけど、今回の委員会については柏市議会の委員会の先例とすることなく、次の議運において、委員会の運営について話し合っていたきたいというふうに思います。この点についてはよろしく願いいたします。

○委員長 まず私から、どういう形で、9月議会で皆さんから、外部の人の現場の声を、生々しい声を聞こうじゃないかということでは同意いただいたんですけども、どういう形でやるかということまで詰めていない中で、事務局と私の話の中で、議会の、この柏市議会の先例として、過去に虐待いじめ防止条例をつくったときに、やはり協議会という形で様々な人をお呼びして御意見を伺ったんですね。議会というところは、先例を大事にするところなので、私もそれでいいんじゃないかなというふうに考えました。しかし、今思えば、日暮委員の御意見なんかも聞けば、どういう形でやるかということをもうちょっと慎重に、皆さんと御意見も聞きながら決めればよかったかなというふうに思っています。こんなところですよ。

○末永 コロナの関係で、事業者含めて自殺が多く出たり、あるいは倒産したり、飲食店なんていうのは苦しんだり、今日も私も市内見てきましたけど、閉店しているところ幾つもありますよね。そういう実態を真摯に聞こう、コロナというのは、これまでの状況と私たちの生活様式を全く変えるような状況になっているわけだから、そういう意味では先例とか何とかじゃなくて、それは悪いことするわけじゃないんだから、先例重視じゃなくて、やはり積極的に議会がそういうふうに参加をす

る、そして聞く、そして謙虚な気持ちで議会運営をする、そのことが今求められていることだと思いますよ。今日の朝日の2面を使って、富山の政務調査費のこと出ていましたけど、その中にも具体的に書いてありますよね、いろんなことが、議会のことについて。だから、そういう古くさい、先例、先例と言うんじゃないで、いいものは取り入れて、悪いのはどんどん変えていく、そして市民ともっと身近なところでやれるという議会に、私はするべきだと思いますよ。

そういう意味では、委員長はこういうのを企画して、ちゃんとやるということ、根回しが足りなかったりということかもしれないけど、そんな根回しなんかしなくて、みんな本来は理解すべきだと思いますよ。今、日暮委員がそう言われたけど、それは昔は何も、平常時のときや何もないときはそれでよかったかもしれない。しかし、コロナで大変なとき、命を奪うような状況になっているときは、やはり我々は先例にとらわれず、積極的に議会やるべきだと思いますよ。そんなことも分かんないような議員だったら、市民から、もう遊離しちゃって大変なことになりますよ、それは。だから、そういうことにならないためにも、私は今日は真摯に、積極的に、協議会じゃなくて、委員会として聞いて議事録を残して、そしてそれがみんなにも明らかにして、市民の皆さんは、議会もやっているのかと、そして商工会議所もそういう気持ちでいるのかという、中小零細企業の人たちが勇気づけられるようなものにするべきだと思いますよ。そういうことにぜひしていただきたいと思います。

○日暮 私も末永委員の発言を否定するものではありません。ありませんけども、ですから次の議運で委員会の運営について話し合っておきたいな、そういうことです。私は、人の意見は否定しません。

○後藤 すみません、私も副委員長の立場で、この委員会ですけれども、今回の委員会の、前回の委員会のときに、閉会中の委員会を開催するんで、商工会の方のお話を聞く、生々しいお話を聞くということまでは知っていましたが、その先協議会になって、ほかの議員に声をかけるとか、一切私には残念ながら相談がありませんでした。ですから、そういった委員会運営はぜひ改めていただきたいと、そのようにお願いしたいと思います。

○北村 今、日暮委員からも、後藤委員からもあったように、やっぱりどういう進め方で、ちゃんと準備をして、コミュニケーションを取って、副委員長なり、どういうふうにするというのをもんでいただいて決めていくというのは、当然大事なことだろうと。ただ、委員長の進めているこの協議会形式だったり、こういうコロナ禍で広くいろんな人にこの議論を聞いてもらったり、フルオープンでやるというのは、そういう姿勢は、私は間違っていないと思います。

○末永 今、後藤君から、ちょっといい、後藤君からあったけど、副委員長という立場だから、常に委員長を補佐し、そして援護し、そして議論をするということだから、私はそういうことが一方的でなくて委員長が連絡したと、それがいつ知ったか分からんけど、副委員長は。知った時点でね……

- 後藤 手紙で知りました。開催方法のこと手紙で知りました。
- 末永 だから、そういうときに、それはもう随分前に来たやつだね。
- 後藤 23日ですよ。23だか24ですよ、そんな前じゃないですよ。
- 末永 今日30日で、1週間前でしょう。
- 後藤 うん、1週間前です。1週間ぐらい前です。
- 末永 だから、その知った時点で、それは協議して、平場で私は聞いていませんじゃなくて、そういうのを修正して議論するのが委員会の委員長、副委員長の立場であるから、それを平場で聞いていないよ、何もなくてやったんだって、そういうやり方っていうのは、私はちょっと子供じみていることで、ちょっと考えられないね、私には。
- 後藤 ちょっとよく分からないです。
- 末永 だから、もうちょっと、知った時点で、これ何ですか、委員長と。これじゃちょっと私の立場ないじゃないですかとか、あるいはこうすべきじゃないですかとか言って、じゃ修正して、こうしましょうよということがあってしかるべきじゃないの、そんなのは。
- 後藤 昨日そういう電話をいただいて、委員長から。そこで私の意見は申し上げました。ただ、そのもう決定した後の事後報告ですから、やっぱりそれは。間間でやっぱり相談欲しかったですね、当然ですけど。
- 委員長 分かりました。ちょっとお待ちください。
- 末永 それは委員長、副委員長の問題であって、そんなこと平場で言うべきことじゃないです、そんなのは。
- 後藤 だから、委員長に対して申し上げたんです。
- 末永 議事録残るんだろうからさ、今やっているものが。そんな子供のようなこと言っているんじゃないよ、議会で。
- 委員長 皆さん、ありがとうございます。私の不十分さもありますので、その辺は反省しているところもあるんですけど、今1時半からの予定で皆さんお招きしていますので、一旦今の話は打ち切って、また協議会終わってから、委員会再開した後で、土木部からの報告がありますけれど、その後足りなければ、議論いただきたいというふうに思いますので、よろしいでしょうか。
- 日暮 いや私としては、今日のことは先例にまずしないで、次の議運で話し合っただけ、これはお願いしたいと思います。（「お願いしたいです」と呼ぶ者あり）
- 委員長 そういう意見ですので、私はそれで結構だというふうに思っていますので、よろしくお願いします。（「30分から」と呼ぶ者あり）30分から。
暫時休憩いたします。

午後 1時25分休憩

○

午後 3時27分開議

○委員長 それでは、休憩前に引き続き委員会を再開いたします。

お手元に配付した報告事項のとおり、執行部より報告をお願いしたいと思います。

委員からの質疑は、執行部からの報告が終わりましたら行いますので、よろしくをお願いいたします。なお、質疑は一問一答方式で行いたいと思います。

委員長から執行部をお願い申し上げます。説明、答弁に当たっては、挙手とともに委員長と発言してください。発言が許可された後は、所属、名前を述べられるようお願いいたします。また、配付資料に基づいて説明される場合は、その旨を発言の上、御説明をお願いします。

重ねてのお願いですが、携帯電話、スマートフォンはあらかじめ電源を切るか、マナーモードにするようお願いいたします。その他電子機器の持込みは禁止されていますので、御注意ください。

○委員長 それでは、報告を行います。

報告番号1の報告事項について議題といたします。

執行部から説明をお願いいたします。

○交通政策課長 私のほうから、報告番号1番ということで、交通空白不便地域の対応について御報告させていただきます。

お手元に、A4版で製本したペーパーございますので、こちらにのっとり御報告させていただきます。公共交通の空白不便地域の対応につきましては、今年6月以降コロナの緊急事態宣言が明けましてから、地域に対してアンケートを実施いたしました。本日は、そのアンケートの状況について御報告させていただければと思っております。

じゃ、1枚めくっていただきまして、1ページを御覧ください。1ページのこちら図面につきましては、市内の公共交通の空白不便地域をプロットしたものでございますが、南部地域の黄色い破線の部分については、これジャンボタクシーを現在運行している地域、そして緑の地域については、今カシワニクルを運行している区域となっております。このほかに赤く着色した部分は11か所ございますが、こちらが現在公共交通空白不便地域で、市のほうで今施策をやっていない、そういったエリアということでございます。今年度は、このうち赤丸で囲ってございます4番、5番、8番、11番という、こちらの4地域を先行して調査、アンケートのほうを実施させていただいております。

この4地域につきましては、2ページをちょっと御覧いただきたいんですが、こういった地域別の評価表というのを作成いたしまして、評定の高かった上位4地域から先行して調査していくということでやっております、おおむね全体の3分の1程度を今年アンケートを実施したというところでございます。こちらの表の一番左に、1番から11番という番号がついてございますが、こちらの番号と上の図面の赤いところの番号がリンクしていると、そういったところでございます。調査表、地域別評価表の評価指標につきましては、人口の状況であるとか世帯の状況、居住

環境の状況ということで、それぞれ点数をつけて、それを合算したものの上から4地域を先行していると、そういった状況でございます。

それでは、今日の本題の具体的なアンケートの内容について御説明させていただきます。3ページ、4ページを御覧ください。今回のアンケート、どんな項目を聞いたかというところをまず御説明いたします。まず、問い1では、性別、年代、運転免許の有無、そして免許を持っている場合は、どれぐらい運転していますかという頻度を聞いてございます。

その次、問い3、問い4で、これ日々の買物について聞いております。よく利用するお店であるとか、そこまでの交通手段、そこまでの移動時間であるとか、あと利用頻度、あと買物に当たっては、現在不便を感じているかどうか、そして感じている場合はどんなことに不便を感じているか。それと、今はないかと思いますが、買物の際、有料のバスがあれば御利用いただきますかどうかということをお願いいたします。

続いて、右側の問い5からになります。こちらは医療施設に関して、買物と同じような質問をしてございます。質問内容については、買物と全く一緒でございます。最後、問い7で、これ地元町会などが自ら地域の交通を運営するような、いわゆる自主運営ということをして他の先進事例では、先進都市のほうでやっていたらいいんですが、そういったことを自分たちの地域でやることについては、どうお考えですかということについて質問をしてございます。

めくって、5ページを御覧いただけますでしょうか。こちらのアンケート、どちらにやったかという具体的なところを御説明いたします。アンケートにつきましては、先ほどの4地域の中にあります主な町会のほうに御協力いただきまして、4地域で計12町会です、12町会に御協力いただきましてやっております。あわせて、今回柏ビレジさんのほうで交通に関するちょっと御相談をいただいております、自治会独自で交通のアンケートをやりたいというお話をいただいたものですから、併せて私どものアンケートについても御協力をいただいたというところがございます。合計9,485世帯にアンケートをお願いいたしまして、約6,000世帯から回答をいただいております。回答率については、63.5%という非常に高い御回答をいただいたかと考えております。アンケートの方法については、町会の回覧にアンケートをつけていただいて、それを持ち回りで書いて、記入して、それを回覧の封筒に入れていただいて、次のお宅に回してもらおうと、そういったやり方をしています。

では、ここからアンケートの結果について御報告させていただきます。6ページを御覧いただけますでしょうか。まず、グラフの見方なんですけれども、縦軸が町会名になっています。寺山町会からずっと列挙してございまして、最後柏ビレジ自治会となっております。一番最後は下が総計という形になっています。途中破線で、点々点というふうに町会の中に筋が入っているんですが、これはふるさと協議会の区分けとなっております。横軸については、アンケートの回答結果をパーセンテージで示してございます。

じゃ、ちょっと具体的なところ御説明させていただきますと、今回のアンケートにつきましては、6ページ上段でございますが、こちら男女別の比率ですが、男性3割、女性が6割ということで御回答いただいております。下段でございますが、こちら年齢構成ですが、地域によってかなりばらつきがあるんですが、平均しますと全体の大体6割が60歳以上の方に御回答いただいていると、そういった状況でございます。

7ページを御覧ください。こちら問い2ということで、運転免許の有無と自動車の利用状況についてお伺いしておりますが、全体の80%の方が免許を持っているといった状況でございます。7ページの下段を御覧いただきたいんですが、それに対してどれぐらい運転をしていますかということで質問をしておりますが、運転免許を持っている方の77.6%の方が、もう日常的に運転していると、そういった状況でございます。先ほどの免許を持っている方が8割いまして、日常的に運転する方というのはそのうちの77.6%ですから、おおむね6割ぐらいの方は日常的にもう運転していらっしゃるんじゃないかなというふうに考えております。

8ページの上段を御覧ください。こちらは日常の買物についてお伺いしています。日常の買物で、最もどんな交通手段で移動されているかということをお伺いしておりますが、御自身で車を運転しているという方が全体の59.2%と、次いで自転車が17.7%、徒歩が11.5%、こういった状況でございました。8ページの下段ですけども、よく利用される商業施設までの所要時間、移動時間について聞いてございますが、全体の48.2%が10分以内で買物に行っているというところなんです。ただ、これはかなり町会によってばらつきがあるというのが、こちらのグラフを見ていただくと分かるかなと思っております。

続いて、9ページ上段を御覧ください。買物の頻度について御質問しています。この中で、週5日以上買物に行くという方が12.9%、週に三、四日は行きますという方が39.8%、週に一、二回行きますという方が37.9%ということで、全体の約9割の方が1週間に1回は必ず買物に行っていますと、そういった状況でございます。

9ページ下段を御覧ください。買物の移動に不便を感じているかどうかというのを聞いた質問でございますが、全体の16.6%の方が今の買物に非常に不便を感じているということでございます。これもやはり、かなり地域によってばらつきがございます。ふだん商業施設まで20分以上かかると回答している町会さんにおいては、かなりやはり不便を感じておまして、大体三、四割の方が不便を感じていると、そんな状況でございました。

続いて、10ページの上段でございます。そういった中で、買物に行く際に、有料のバスがあったら利用していただけますかということなんですが、すぐにでも利用するという回答については、全体の20.3%で大体2割ぐらいですね。有料のバス使いますという方は全体の2割ぐらいしかいらっしゃらないという状況でございました。全体の40.1%が10年後は利用するかもしれない、33.7%が利用しないといった御回答でしたが、合算しますと大体バスがあっても利用しないであるとか、今すぐ

はちょっと使わないという方が7割ぐらいという状況でございました。しかし、こちらも町会によってかなりばらつきがございます。先ほど買物に、移動に不便を感じている町会さんについては、かなり高い割合で今すぐでも使いたいと、そういった御回答をいただいております。

10ページの下段からにつきましては、こちら病院、医療施設に行くことについてお伺いしております。質問内容は買物と一緒にございますが、最もやはりふだん利用している交通手段については、御自身で車を使っているという方が一番多くて、全体の51.4%と半分以上が御自身で運転していらっしゃるということでございます。

11ページの上段でございますが、通院にかかる時間については、10分以内で通院していますという方が39.2%、20分以内が33.3%で、全体の7割の方が20分以内には通院できているという状況でございました。

11ページの下段を御覧ください。通院の頻度ですが、月に1回が25.9%、年に数回ということが43.4%で、合算しますと大体7割の方が月1回以下の頻度で通院されているという状況です。これ買物と通院を比較しますと、買物については9割の方が毎週買物に行っているのに対して、通院については大体月1回が7割ぐらいということで、かなりその目的によって出かける頻度が違ってくるということが、今回のアンケートで明らかとなっております。

12ページ上段でございますが、そういった中で通院に不便を感じている人の割合がどれぐらいかというふうに聞いておりますが、不便と御回答いただいた方は13.2%となっております。同じように、有料のバスがあれば利用しますかという質問については、12ページの下段でございますが、すぐにでも利用するという方は21.5%、約2割ぐらいの方がすぐ利用しますということでございます。10年後は利用するかもしれないという方が41.5%、利用しないという方が28.3%、こちらもやはり全体の7割が利用しない、もしくはすぐは利用しないですよというふうにお答えいただいております。こちらも、先ほどの買物と同様に、かなり地域差が大きくなってございます。やはり通院に対して不便だと御回答いただいている町会については、やはりすぐにでも利用したいという方の割合が高くなっている、そんな状況でございます。

最後に、13ページでございますが、問い7ということで、地域が主体となって公共交通を運営していくという地域交通というのを必要かどうかという質問でございますが、全体の約半数、51.2%が必要じゃなからうかという御回答をいただいております。全体を通しまして、今このアンケートに御協力いただいております町会の役員様のほうに、アンケートの結果について順次御報告をさせていただいております。あと、このアンケートの結果から分かるかと思いますが、公共交通の空白不便地域多数でございますが、やはり地域によってかなり状況が違う状況でございますので、これについては今後アンケートで拾えなかった御意見等もあるかと思っておりますので、順次ヒアリングを実施していきたいなという、地域へのヒアリングを実施

していきたいなというふうに考えているところでございます。

報告については以上でございます。

○委員長 本件について質疑があれば、これを許します。

○林 一番最後のページの一番下のところに、この一部町会からの要望により、本設問の集計はしておりませんというのがあるんですけど、これは町会はどういう立場でこういうふうに要望を。

○交通政策課長 やはり今町会さんのほうに、役員の方の御負担というのは非常に多くて、なかなかその町会としての継続の意味でも、なるべく町会役員さんの労力を減らすというか、なるべく成り手が多いうようにやっていこうという動きがあるのかと思うんですが、そういった中で、こういった地域交通みたいなものというのをいきなりアンケートで吸い上げてしまっても、町会のほうにやっぱりそういった負担が増えるんじゃないだろうかということもあって、こちらの町会さんについては、この設問7については対象外としてほしいですという御要望をいただいておりますので、そこはそうように取り扱っているというところでございます。

○北村 この資料自体はとても見やすいし、アンケートも取っていただくのは大変意義のあることかと思うんですが、このアンケート65%ぐらいですか、回収率。63.5%ですか、これを高いと見るのか、低いと見るのかはちょっと、先ほど交通政策課長が高いというふうにおっしゃっていましたが、もうちょっと頑張っているか、高くなればいいなというのが私の思いでございます。そして、いろいろアンケート結果なども、ちょっとその前にこういう資料、すごく見やすいんですけども、この場でぱっと見て、こういういろいろ見ていくと、ちょっと相当あれがあるので、もし可能であれば、事前に頂けたりできたらいいのかなという思いもあります、それはいいんですけども。

ちょっとこのいろいろアンケート結果見ていると、すぐに必要はないみたいなのが、例えば最後の問い6とか、様々なところにすぐにでも利用するというふうな回答が20%前後という回答も多く見受けられるんですけども、これはすごい捉え方だと思うんですけど、やっぱりここの20%というのは大事だし、今80%が車利用でしたっけ、そうしている中で、やはりこう20%の人たちがやっぱりすぐに利用したいと。こういう免許返納とか高齢化の中で、今車に乗っている方が、リアルに自分が乗らない状況というのをなかなか想像しにくいんじゃないのかなというところがあるので、この20%とか30%とか、すぐに要する率が何か低いんじゃないかというふうに捉まえることもできるかもしれませんが、そこはやはり私は、かなり必要性は高いんじゃないかなというふうに見ておりますが、いかがお考えでしょうか。

もう一度言います、アンケートの回収率がやはり低いというところは、やはり大事なことなんでしょうけども、なかなか興味がないというか、こういうことになかなか関心が持てない、本当は公共交通考えるべき人たちが関心を持っていない状況があるんじゃないかなというふうなところもありまして、アンケートの回収率とデータをどういうふうに捉えているかというのをもう一度お示ししたいと思っております。

すみません、長々と。

○交通政策課長 アンケートの回収率については、市全体でやっている市民意識調査みたいなやつがたしかあったと思うんですけど、あれについては大体半分ぐらい、平均50%ぐらいでずっと回収率が推移しているものですから、それと比較すると、そこそこ高かったのかなという状況で考えてございます。

あと今回不便を感じていると、すぐにでも利用するという方が20%ということでしたが、それはあくまでも全体を平均するとということでございますので、やはり場所によっては、今すぐでも乗りたいという町会さんが40%もいらっしゃる場所もあったりとか、そういったところでもありまして、かなり地域によって、やはりバスはないけど、近くに買物する場所があるから乗らないというところもありますし、全くそういうところがなくて、近くのスーパーが潰れてしまって、遠くまで行かなくちゃいけない、ぜひ足が欲しいというところもあると思いますので、その辺は地域に入ってちょっと対話しながら、本当に今どういう状況なのかと、アンケートだけじゃやっぱり聞き取れないところについて、ちょっとキャッチボールをする必要があるのかなと考えております。

○北村 はい、了解しました。よろしく申し上げます。ちょっとこういう言い方はあれですけど、選挙などでも、例えば意識の高い人は選挙に行くというような言い方をする方もいるし、そういう考え方も一つあると思うんです。ただ、やっぱり意識のない、そこに思いが至らない、そこまで考えている日常いとまがない、余裕がないという人もたくさんいると思うので、その率は、アンケートの回収率だったり、声を聞き取る方法も含めて、やはり上げていく必要があるんじゃないかなと思っております。よろしく申し上げます。

○末永 このアンケートを取ることを否定はしませんけど、これ見ればごく普通の、ごく普通の当たり前の結果ですよ。こんなことアンケート取らなくたって、町会に聞きゃ分かる程度です、私から見たら。これと一致することは何かといたら、日常生活圏データで10月1日毎年発表するの、それと全く一致していますよね、データが。65歳以上人口と75歳以上人口、80歳以上人口、そして商店がない、スーパーがない、病院へ行くところの路線がない。これ一致しているわけですよ。そんなのはわざわざこう、取るのはいいことだけど、役所だから取らなくちゃいけないのかもしれないけど、そうじゃなくて、交通不便地域はどこどこことというのは、もう分かっていることだよ。柏に、議員さんに聞きゃ分かることだし、あるいは柏に住んでりゃ分かることですよ。だから、こういうことよりも具体的にタクシー会社、この前私は反対したけど、タクシー会社が何言っているかさっぱり分かんない。私一人反対して、ほかみんな賛成したけど、タクシー会社が地域貢献したいという何か、あれをしましたよね。だったら、地域貢献したいと言うんだったら、そこと具体的にどう話しているのか、あなた方をアンケートしたいね、逆に。どうやって、いつ幾日にどういう話をして、その議事録でどういう意見が出たんだと、業界としては。そういうことをされているんでしょうか、まず第1問。

○委員長 一問一答でお願いします。

○交通政策課長 今回の……

○末永 簡単に言ってください。業者と話しているのかって聞いているの。

○交通政策課長 具体的に、事業者のほうと具体的な話はまだしておりません。

○末永 していませんよね。そこで、ちょっとどこの市だか忘れたけど、広島県だったけど、そこはよく、私はゴルフやらないから分からないけど、東南アジアなんかホテル行くとほとんどゴルフ場の、何カートっていうの、カートがありますよね、何もついていない。そのカートをタクシー会社が活用して、あれは19キロ以下の場合公道を走るとは、国土交通省が認めているんですね、整備もなくていいと、それは簡単でいいと。ただし、両サイドに安全対策はしなさい、だけど車のようであれを遮蔽しちゃ駄目だと。そこでどうしているかといったら、この桐生市なんかは、寒いときはビニール張っているの。夏は剥がしているんです、桐生市は。これは共同的に桐生市と前橋大学と提携して、高崎大学だったか前橋だったか忘れたけれど、提携して、私視察行ってきたけど、提携して19キロ以下で、ここはどっかのNPO法人か何かで運営して、整備工場で行っているんです、整備士がいて。

あれは大型だから、バスみたい、マイクロバスみたいだからちょっと難しいけど、あのカート、カートって分かりますか。カートで運営して、タクシーがワンコインで、500円のワンコインで、ワンコインで送迎します、往復で1,000円です。具体的かつ分かりやすくやっているんですよ、これ全国で行っているね。国土交通省がこれ奨励しているんですよ、そういうふうにしなさいって。だから、こんなアンケートするよりも、試験的にタクシー会社と締結して、話をして、おたくのところで利根町会の往復、市立病院とスーパーと行けるコースを、電話あげたらすぐ受けて、500円コインでやってみてくれませんか、どうですかと。あるいは、荒屋敷だっけどこだっけ、向こう布施新町載っていないけど、根戸、布施、宿連寺、この辺で循環で、手挙げたら乗れるようにしたらどうですかというのを具体的かつやったらいかがですか。

そういうことをすることが、まず業者にそれやらせるんだから、補助出しますと試験的に、整備費用と人件費、試験的にお金を出しましょうと柏市が、大した金じゃないよね、それは。シルバーで2種免許か何か持っていれば、2種免許やれば、2種免許持って、広島県は2種免許を持っていて、そのタクシー会社が整備しているんですよ、それは。そして、19キロ以下だから、何も規約のあれがないんです。保険が、500円のうち100円が保険代だったかな、入っているんです、それは。そして、市がそこに補助出している。だから、補助金も大した金じゃないんですよ。そういう先進的な市町村の中で学んで、安い、安価で、あれは何か五、六十万で1台買えるそうだし、それは。あそこは1,000万単位ですよ、浦安の車は。あまり満員に乗るがために、すぐ故障するらしいけども、ほとんど故障しないってこの前やりましたよ。だから、私はそういう具体的なことを先進市に学んで、具体的にやるべきだと思いますよ。もう前から言っていることだよ、ここら辺は。

だから、タクシー会社がこの青いところ、カシワニ何とかいって、空気運んでいるようなことをやっていますよね。そうじゃなくて、電話して、ワンコイン、500円ですよとやったら、需要と供給の資本主義社会だから、需要と供給がなかったら、やる必要ないんですよ、そんなのは。そうでしょう、資本主義社会は。社会主義社会だったら、それは計画的にやらなきゃいけないから、やるでしょうよ。だけど、資本主義社会だから、需要と供給にマッチしてどうなのかなんだから、そんなのは役人がぐしゃぐしゃ、ごちゃごちゃやるよりも、民間にこういうことで補助金出すから、こういう何とかカートでできませんかと、そのために道路はそこだけのグリーンの線をずっと敷いてカート専用にして、そこは一方通行もできるように何か印つけましようとか、そういう交通整理をすれば、何ら難しいことも何でもないでしょう。そういうことについては検討されているんでしょうか、見たことありますか、あなたは担当だったら。

○交通政策課長 今、末永委員からお話いただきましたのは、恐らくグリーンスローモビリティの話で、（「ん」と呼ぶ者あり）グリーンスローモビリティの話かと思うんですが、私も桐生市の中を走っているものについては、個人的にですが、現地を見て、視察ではないですが、現地で確認してございます。あと昨年度ですか、松戸市のほうでも、やはりその福祉関係の部署でやっていたんですが、やはりそれはゴルフカートみたいなやつで、たしか6人乗りぐらいだったと思いますが、実証実験をやっている事例がございましたので、そこは私のほうでもやはり、部長とともに一緒に現地に行って、乗車してヒアリング等を実施してございます。

○末永 役所の人ですから、今コロナで行けないし、東南アジアとかいろいろなところ旅行する方もいるけど、いるんだと思うけど、東南アジアとかインドなんかも含めて、ほとんどそういう何か昔のラッタッタって分かりますか、ラッタッタで、あれでみんな乗りますよね、みんなタクシーは。みんなあれですよね、吹っ飛ばす人もいるけども、大体何とかってウーバー使って、それで全部だまされないように、ウーバーで全部安いワンコインで、大体普通のタクシーよりもそれを使い、長距離は別です、まちの中だったら、それで走っていますよね、物すごい量で。

あれにしろとは言いませんけど、日本ぐらいなもんですよね、タクシーで規制があっといういろいろとあるのは。だけど、その国土交通省が省令出して、19キロ以下だったらタクシー会社じゃなくてもいいと、NPO法人でもいいと、あるいは地域の町会で設置してもいいよと言っているんですよ。だから、そういうことでこれアンケートで言ってるのかもしれないけど、そんなこと言うよりも、タクシー会社さんが社会貢献したいと言うんだったら、そこと交渉して、こういうゴーカーみたいなものがあるから、それで何かできませんかと、実証実験で補助金出しますから、どうですかとやったらいかがですか。

同時に、あなた方これだけやっているけど、これはこれに基づいてやんなかったら駄目だよ、分かるこれ。これは日常生活圏域データって、65歳以上のデータですよ、11万人。あなたがここで書いているところが高齢者化率、例えばこの地域は

全部高いですよ、これ比べたら、これは。これは一番新しい、今年のもらった、私は。だから、こういうふうにこれと連動したら全部分かるんですよ。高齢者の人は多分車運転できないと、75歳、80歳になっちゃったら免許証返上したよ。自転車で行ったら、歩くのはちょっと大変だと、病院に具合悪いとき行けないと、タクシーは高いと、年金生活で苦しいと、これが実態出ているんですよ。

ここのところはさ、年金がたくさんもらっている高額、例えばデータで見れば、70歳以上の人たちが2割とか3割負担の人は、ほとんどいませんよ。分かるか、言っている意味が、この人たちは、この地区は。そのデータも私もらっているけども、だからそういうことを考えたら、誰が対象なのか、誰が必要なのかと必然的に出てくるでしょう。だから、福祉の要素もあるんだから、福祉の要素も含めて検討すべきじゃないでしょうか、そこでやられているんですか。

○交通政策課長 やはりいろんな移動ツールというのはあるかと思うんですが、今福祉のほうとは、うちと、交通政策と福祉の地域包括支援課のほうと意見交換しながら、どんなことが一番求められているかというところは、どこを目指せばいいかということは、どこを目指して、どんな交通を提供すべきかということは、定期的に意見交換等はしております。

○末永 今まで福祉タクシーというのは、1回750円で柏市内どこでも行ったんですよ。それが採算が合わないということで、それが合わないということで、これが福祉タクシーがだんだん値段が上がっちゃっているんです。そういう関連をして、タクシー会社がなかなか参入しない、福祉タクシーに。北柏交通さんは、全部ヘルパーさんつきで運転手さんになっている。そういうふうに積極的にやっているから、あの松丸社長さんも今回の請願出したように、私は福祉の要素もあるし、なおかつ不便地域というのはそういうものあるし、このコロナの関係で基礎疾患が柏市民で8万8,000人いると、基礎疾患の方が。そういう人は病院に行きたいわけですよ。だから、そういうために公共交通が必要となったら、福祉と相談して、議論する必要があるんじゃないですか、具体的に私はやるべきだと思いますけど、いかがですか。

○交通政策課長 具体的にどういった地域に、どういったツールを入れるかというところを、地元とキャッチボールする。その声を聞くために、今回このアンケートもそれに先立ってやっているというところがございますので、これから引き続き地域とはやっていきたいと思っています。

○末永 否定はしない、だから。

○日暮 ちょっと委員長、これだけメンバーがいますから、ほかの方も発言できるように、ちょっと……

○末永 いいよ、終わるからもうすぐ、終わるから。否定はしないけど、私はもうずっと議会の中でも、不便地域についてどうするかという議論もずっとしてはいますよね。だから、具体的に、そしてその具体的にどうするのかってやつをしないと、アンケートの段階じゃないということを言っているんです、それは。だから、ちゃんとやってほしいんですけど、そういうあれをね。広島の件言いましたけど、ぜひ

調べてやってみてください。

○林 私からも簡単に。ビレジの自治会が、独自にアンケートをやりたいという意向を出したというのは、どういう思惑があるのでしょうか。

○交通政策課長 ビレジの方、いろいろ御自身、自治会さんのほうで、いろいろなことをいろいろ検討されていらっしゃると思います。その中で、ビレジといたしましては、やはり若者を呼び込む、まちに若者を呼び込むのに、やはりそういう交通手段がやっぱりしっかりしているほうが定住促進といいますか、若者を呼ぶためのPRになるんじゃないかなというところで検討されているというところだと思います。

○林 ビレジは、既に何か交通に対して自治会内で何かやっているんですかね。アンケート見ると、バスがあった場合に使いますか、すぐに使いますかの割合は少ないのに、バスが最終的にあったらどうですか、最後の設問です、最後の設問のところはすごい割合が高いんですよ。何か既に何か具体的なものをちょっと検討しているのかなというふうな気がちょっとしたんですけれど、いかがですか。（「そのとおりですよ」と呼ぶ者あり）

○交通政策課長 ビレジさんのほうでも、やはりその地域の交通として、例えばたなか駅のほうに行く足が必要じゃなかろうかとか、もしくはデマンド方式のほうがいいんじゃないかということ、中にはやはり交通に詳しい方がいらっしゃるって、その方がいろいろ、まちとしてその自治会として、どんな交通をこれから入れていくべきかということ、役員さんの中でやっぱり議論されていらっしゃる状況でございます。

○林 全く違う質問なんですけれど、常盤台の町会のアンケートの回収率が著しく低いのは、何か理由があるんですか。

○交通政策課長 申し訳ございません、これなぜ低いかという、回覧方式でやっていますので、ちょっとなぜ低いか具体的なところは実は追い切れていない状況でございます。

○林 じゃ、最後の設問なんですけれど、この割と具体的に町会がバス会社とかタクシーとかと契約し、というようなところを出しているじゃないですか。ただ、ちょっと市原とかの事例を聞くと、町会で運営するようなコミュニティバスみたいのは、大分運営する側がっらくなっているという状態も聞いていますし、ほかのやり方というのをアンケートの中では何で聞かなかったのかなというのが少し疑問なんですけれど。

○交通政策課長 仮に市が主体でやるコミュニティバス、今ジャンボタクシーなんかそうですが、そういったことでやるという場合であっても、やはり地域でどこに行きたいのかというところを、やっぱり地域の方に御意見出いただきながら、その目的地と御自身のお住まいをつないでいく、需要に対して供給をしていくためには、やっぱりそこは大事だと思いますので、そういったときに、行政のほうにもう全て任せっきりでなくて、やっぱり自分たちの移動手段をどうあるべきかというふうに議論していただきたいというところの思いがあったものですから、そうい

ったところで地域として自分たちの交通手段を考えていただける、そういった地域の雰囲気といいますか、そういったものがどれだけあるのかなというのをちょっと確認したくて、こういった項目を入れています。

○日暮 私も市にお願いしたいのは、末永さんと同じです。早く実施してほしい。困っている人は、本当に困っているんですよ。形はいろんな形があると思うんです。ですから、それは全国的な例はたくさんあるんでしょうから、それらを見た上で、タクシー業界も協力していきたいということを言っているわけですから、本当に早く始めてほしいですよ。これ今回のことだって、交通不便地域始めてもう3年、4年過ぎていますよね。望んでいる人がいなくなっちゃいますよ、今の人たちが。本当に行きたい人たちが、まだ健康で表に出られるうちに利用してもらったほうがいいと思うんですね。これだけの区域になっていますけど、これを全部タクシー業界に示して、いろんな会社あると思うんですよ。どこの会社、どこか協力できませんかとか、具体的にやってほしいと思いますよ。

何しろ今の社会、変化が早いんだから、その社会の変化に合わせて、もっと行政もスピード感を持ってやってくださいよ。それで、多分こんなことをお願いするんだけど、お金が市のほうからそこに回るか回らないかっていうのもあると思うんですよ。それは、だけどしつかりと部長を通して、もっと上層部とか財政で話し合ってもらって、必要なお金をうんともらってくださいよ。それを今度最終的に考えていくのは、副市長もいらっしゃいますけども、市長もいるし、財政部長もいるし、お金のことはその辺で考えてもらえばいいと思うんです。皆さん方は、必要なものは大いに要求してください。早くやってください。以上です。

○副市長 もう既に商工振興課と、それから交通政策課と地域包括支援課と介護支援を実際にやろうということで、もう何回か会議は開いています。今回のアンケート調査を踏まえた上で、ある程度モデル地域をどこかに絞ってタクシー業界と話を進めていきたいというところには来ていますので、当然お金だけの問題じゃなくて、どう具体的にそれを実施するかというのを早急にまとめさせて、まずはモデル的にまずどこかの成功例をつくって、それを広げて全庁的にやっていきたいというふうに思っておりますので、御指摘のとおりスピード感を持ってしっかりやってまいりたいと思います。以上です。

○石井 今タクシーの会社が協力したいと言っているという9月のあれで出ましたよね。それ私なんか賛成したんですけど、沼南ではもう既にやっていますよね。その前はそのコミュニティバスでやったけど、それはあまり評判がよくなかった。今は評判はそんな悪くないと思います。だから、このアンケートで60%近くの回収率と言ったけど、あとの40%は関心がないんですよ。ないから来ないんだから。だから、60%っていうのは、100%みたいなもんなんですよ。だから、このアンケートばかりじゃなく、このアンケートの中で要するに必要だということありましたよね、3か所ぐらいかな。そういうところを重点というかモデルケースにして、タクシー会社と話ししてやってもらうようなことをやって、それで成功したら、またどっか

をやるというようなことをやってもらいたいと思います。以上です。

○委員長 ほかに大丈夫ですか。よろしいですか。副委員長は……

○後藤 もう皆さんと同じです。

○委員長 いいですか。ほかに質疑がなければ、質疑を終結いたします。

○委員長 以上で本日の建設経済委員会を閉会といたします。

午後 4時10分閉会